

関電の不正問題の闇は深い

末田一秀（関電の原発マネー不正還流を告発する会事務局）

エグゼクティブフェローって何する人？

関西電力副社長として原子力部門のトップを務めた豊松氏に退任後、付けられた役職名です。顧問や相談役など、関西電力は退任後の役員に様々な肩書をつけて報酬を支払ってきました。株主総会で、いったい何人いて報酬額はどうなっているのか、毎年のように質問しても答えがありませんでした。

その一端が、原発マネー不正還流問題の第三者委員会報告書で明らかになりました。

福島原発事故後に原発がすべて停止に追い込まれた時、関西電力は2013年5月と2015年6月の2度にわたって電気料金の値上げをしました。様々な経営努力をするのでと説明され、その中に役員報酬の減額がありました。ところが、役員退任後にその減額分を補填することを、当時の森会長と八木社長がこっそり決めていたのです。豊松氏の場合毎月90万円！ 豊松氏は森山元高浜町助役らから1億1千万円の金品を受領した原発マネー不正還流問題の中心人物の一人。金沢国税局から所得に当たると指摘を受け、追徴課税を支払っていました。そうした事実を伏せたまま昨年6月の株主総会で退任してフェローに就任。八木会長と岩根社長は森相談役（いずれも当時）にも諮って、追徴課税分を5年かけて補填することを決めました。その額毎月30万円。結局、豊松氏の報酬は月額490万円！ 過去のエグゼクティブフェローの倍額相当だそうです。

第三者委員会報告書は「追加納税は個人の税務上の問題で職務執行に関するものとは言いがたく、正当性を認めることは困難」と指摘しましたが、金額までは明らかにしていませんでした。関電は、その後、補填を受けていた退任役員は18人、昨年10月までの支出総額が2億6千万円と公表しましたが、森、豊松両氏以外の氏名すら明らかにしていません。

第三者委員会もユーザー目線を欠いていると批判していますが、私たち電気料金を支払ってきたものとしては許すことができません。自分たちの都合で会社の金を懐に入れるのは業務上横領です。

「関電の原発マネー不正還流を告発する会」では、5月20日まで告発人を募集しています。委任状を提出するだけの簡単な手続きですので、ご協力をお願いします。（詳しくはHPを会の名前で検索）

今回の関電の一連の問題は、迷惑施設である原発の建設や運転が、多額の金品を配り、原発利権を形成して一部の者で享受する体制なしにはできなかったことから生じています。関電は経産省に改善計画書を提出しましたが、会長に榊原前経団連会長を招くなど原発推進を改めようとしていません。

脱原発へと舵を切り、情報公開と説明責任の徹底を図って、市民の監視下で企業統治の再構築を図らない限り、関電の再生はできないでしょう。

まだ関電の電気を買っている方がいらっしゃったら、これを機に他の電力会社に切り替えることを強くお勧めします。「エネチェンジ」など料金比較サイトから申し込めます。